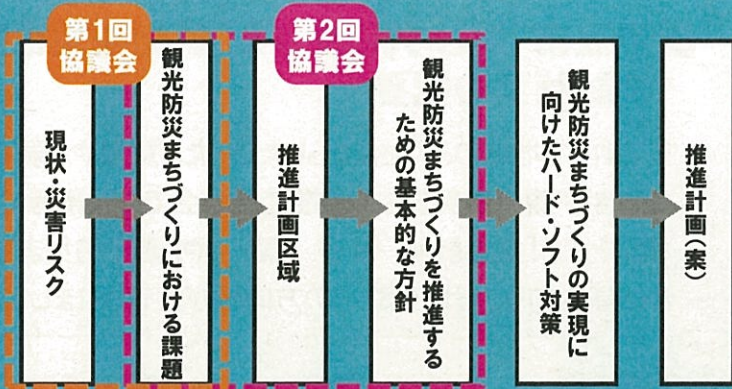


伊豆市
“海と共に生きる”

観光防災まちづくり ニュース Vol.1



発行：伊豆市津波防災地域づくり推進協議会事務局(伊豆市防災安全課内) 発行日：平成28年8月25日
住所：静岡県伊豆市小立野38-2 TEL:0558-72-9867 FAX:0558-72-6588 E-mail:bousai@city.izu.shizuoka.jp

土肥地域は、自然環境や観光資源に恵まれている一方で、人口減少、少子高齢化の進行や、災害リスクなどの課題を抱えている地域でもあります。そのため伊豆市では、地域のみなさんと一緒に考えながら、環境・観光・防災のバランスのとれたまちづくりを進めるための計画である『伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（以下、推進計画）』についての検討を始めることとしました。



土肥地域全景

『観光防災まちづくりニュース』では、みなさんとの推進計画に関する情報を共有できるよう、計画づくりがどのように進められているのか、どのようなことが議論され、計画がどのような内容で考えられているのかをお伝えしていきます。

■推進計画を検討する上で基本とする考え方を設定しました

1. 環境・観光・防災などのバランスの取れた計画を検討します
2. 市民やさまざまな関係団体・機関が共に考えながら計画をまとめあげます
3. 南海トラフ巨大地震の被害想定結果を十分に踏まえた地震・津波防災上の課題整理と対応方針を検討します

■地域のみなさんや有識者、関係機関で考える体制で進めています



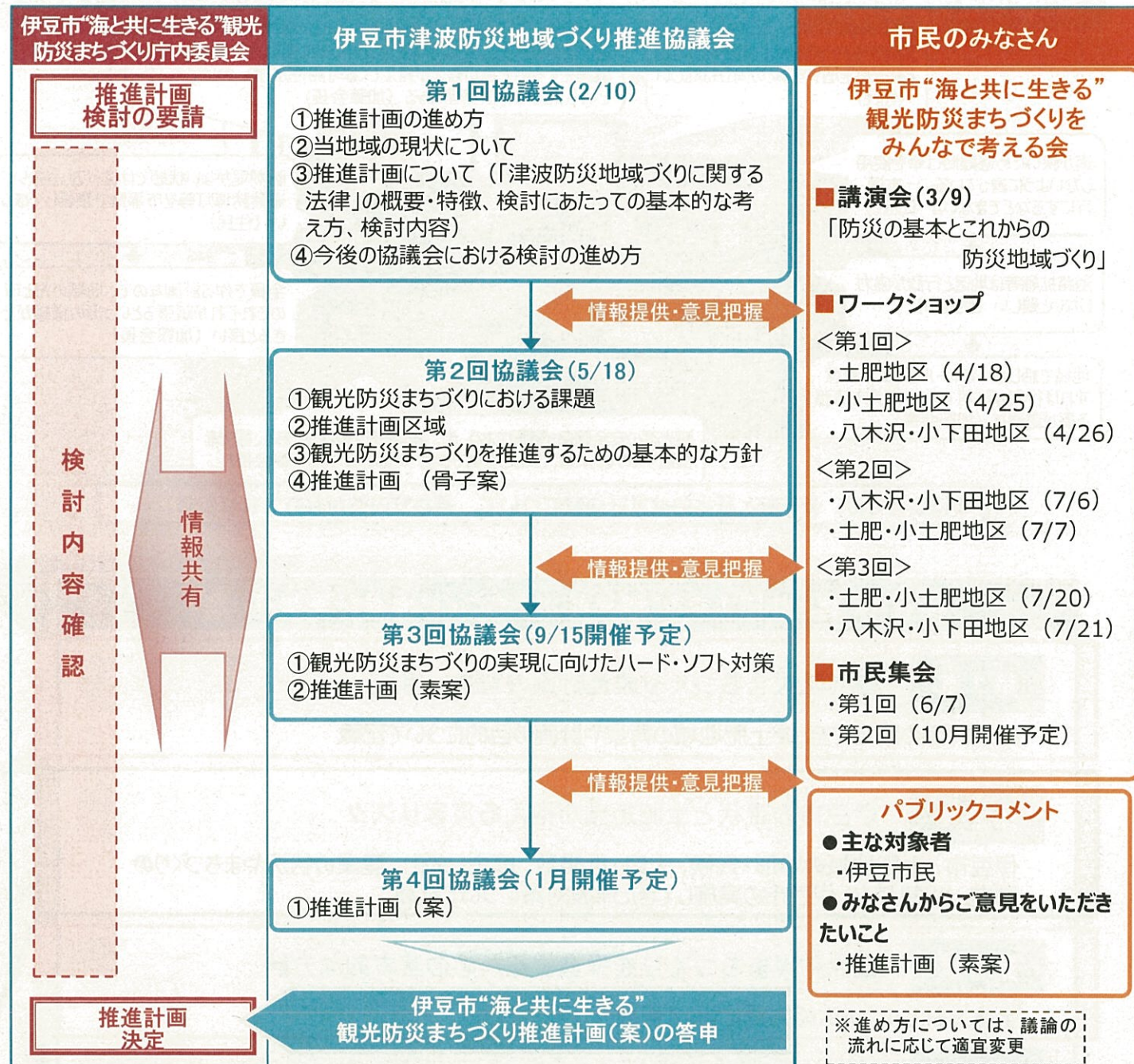
検討にあたり一言
防災vs観光ではなく、
防災+観光
地域の皆さん
土肥の明るい未来を
一緒に考えましょう。
今こそ知恵の出しどころです！！

加藤 孝明(かとう たかあき)
東京大学 生産技術研究所
都市基盤安全工学国際研究センター
准教授 博士(工学)

検討にあたり一言
地域に合わせた津波
防災地域づくりを、
皆さんと一緒に考え
て行きましょう。

原田 賢治(はらだ けんじ)
静岡大学防災総合センター
准教授 博士(工学)

■これまでの検討経緯と今後の進め方



■第1回伊豆市津波防災地域づくり推進協議会で出された主な意見（平成28年2月10日(水) 土肥支所）

計画を策定にあたっては、実施可能な事業・事務を位置付け、足りない部分は課題として計画に示し、次につなげることが重要だ(加藤会長)

地域住民は、安全・安心を考えると、防潮堤を整備してほしいと言っているが、なかなか進められないのが現状だ(漁業関係)

宿泊客はホテルの上層階(高層ホテル)への避難を想定している(観光関係)

避難路を自分達で作っているが整備費用の捻出が課題だ(住民)

子ども防災教育が非常に大切。また、海水浴客への避難対策が必要だ(小中学校PTA役員)

今後も人口を維持できるような施策を進めたい(伊豆市)

他地域よりも観光客の減少率は小さい。人手不足が課題だ(観光関係)

海沿いの住民の多くは津波被害想定を理解している。内陸部の住民は急傾斜に関する災害が心配だ(住民)

今回は、推進計画の最初のバージョンであり、考えなければならない事項が出てきたら、更新を重ねていくべきだ(原田副会長)

本協議会では、伊豆市や土肥地域の現状と課題、検討の進め方について確認されました。

第2回伊豆市津波防災地域づくり推進協議会で出された主な意見（平成28年5月18日(水) 土肥支所）

防潮堤を作り地震による被害を防ぐ事と観光客を増やす事の両立は難しい（住民）

違う意見のバランスを取る事を考えないのは良くない。時間をかけて議論をする中で良い答えが見えてくる可能性があり、今はそのスタートを切ろうとしている段階にある（加藤会長）

道が狭いため避難時は車を使用しないように言っている。一方通行にするなどできないか（住民）

防潮堤がない状態では逃げるしかない。避難誘導灯等を市事業で整備してほしい（住民）

道路拡幅等は地区と行政が協力しないと難しい（伊豆市）

全員で作る計画なので、地域の方と市のそれぞれが頑張るとい形での議論ができると良い（加藤会長）

地域で話し合っルールを決め、合意すれば行政が許可できる。両方で頑張る事が重要だ（加藤会長）

観光客の安全確保が課題であり、市、県と連携する必要がある。観光を推進するのであれば、このような場で検討すれば良い（原田副会長）

本協議会では、骨子案と基本的な方針の案について、概ね方向性が共有されました。

■伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画(案) 検討状況の概要

これまで地域のみなさんからいただいたご意見や、第2回伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進協議会での協議等により、推進計画の構成となる「推進計画 骨子（案）」や「観光防災まちづくりを推進するための基本的な方針（案）」の方向性が共有されました。

各地区の現状や課題についてご意見をいただきました

みんなで考える会（ワークショップ1回目）
平成28年4月18・25・26日

みなさんができそうなことや必要な支援についてご意見をいただきました

みんなで考える会（ワークショップ2回目）
平成28年7月6・7日

協議会の検討内容をみなさんと共有しました

みんなで考える会（市民集会）
平成28年6月7日

対策実施において心配なことや気になることについてご意見をいただきました

みんなで考える会（ワークショップ3回目）
平成28年7月20・21日

伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画骨子(案)

第1章 観光防災まちづくり推進計画の背景・目的

推進計画の策定に至った土肥地域の背景や計画の目的について記載

第2章 伊豆市の現状と土肥地域が抱える災害リスク

伊豆市、土肥地域の地形・気候、人口・世帯数、歴史・文化、産業の状況やまちづくりの動向、災害リスク、伊豆市の実施してきた津波対策について記載

第3章 観光防災まちづくりを推進するための基本的な方針

全体方針と4つの取組方針について記載

第4章 推進計画区域

浸水想定区域外の避難施設や広域的な支援が必要になることを考慮し、伊豆市全域を推進計画区域として設定することについて記載

第5章 観光防災まちづくりの実現に向けたハード・ソフト対策

「共生する」、「逃げる」、「生き延びる」、「守る・減らす」の視点で、土地利用や警戒避難体制、事業・事務について記載

第6章 推進計画実現に向けた今後の進め方

推進計画を実現するため今後より具体的な検討が必要な事項、具体的な検討の進め方（体制、スケジュール）について記載

参考 推進計画検討の経緯
推進計画検討においてみんなで考えたこと

※推進計画の骨子や内容については、現時点での案であり、確定した内容ではありません。そのため、今後のみなさんとの議論などによって内容が多少変更となる場合があります。

第1章 観光防災まちづくり推進計画の背景・目的

本市では、「津波防災地域づくりに関する法律」に基づきながら、伊豆市全域を推進計画区域とした【環境】・【観光】・【防災】のバランスのとれたまちづくりを進めるうえでの方向性や取り組みを示すことを目的に、『伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画（案）』を策定します。



第2章 伊豆市の現状と土肥地域が抱える災害リスク

人口・世帯数	・土肥地域は高齢化率が最も高く、現在の人口は明治21年と同規模 ・今後さらに人口・世帯数減少が進行し、高齢化率が高くなるものと想定
産業	・宿泊・飲食サービス業の事業所・従業者数が多い ・観光交流客数は経年的に減少傾向。ここ数年は比較的安定。宿泊客が多い地域
まちづくり	・伊豆市都市計画マスタープラン、都市計画区域の見直し、伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク構想等の計画が関連
災害リスク	・安政東海地震の津波を経験。L2の地震・津波は、最大津波高T.P.10mが6分で到達する想定 ・土砂災害警戒区域90箇所、土砂災害特別警戒区域63箇所が指定（H27.12現在） ・狭隘な道路や木造住宅密集地域が多い
津波対策	・津波対策の協議や、防潮堤・避難路・避難タワー、誘導標識の整備、避難ビルの指定 等

第3章 観光防災まちづくりを推進するための基本的な方針(案)

■全体方針

観光、環境、防災のバランスがとれた海と共に生きるまちづくり

■取組方針

共生する	リスクを理解し、工夫を積み重ねて安全性を高めるエリアの形成
逃げる	住民、観光客、従業員などの安全を確保するための警戒避難体制の構築
生き延びる	地域が早期復旧するための支援機能の向上
守る・減らす	地震・津波・土砂災害による被害を少しでも減らすための防災・減災対策の推進